

練馬区のあらし

1	地勢		8
2	歴史		10
3	人口		12
4	気象		19



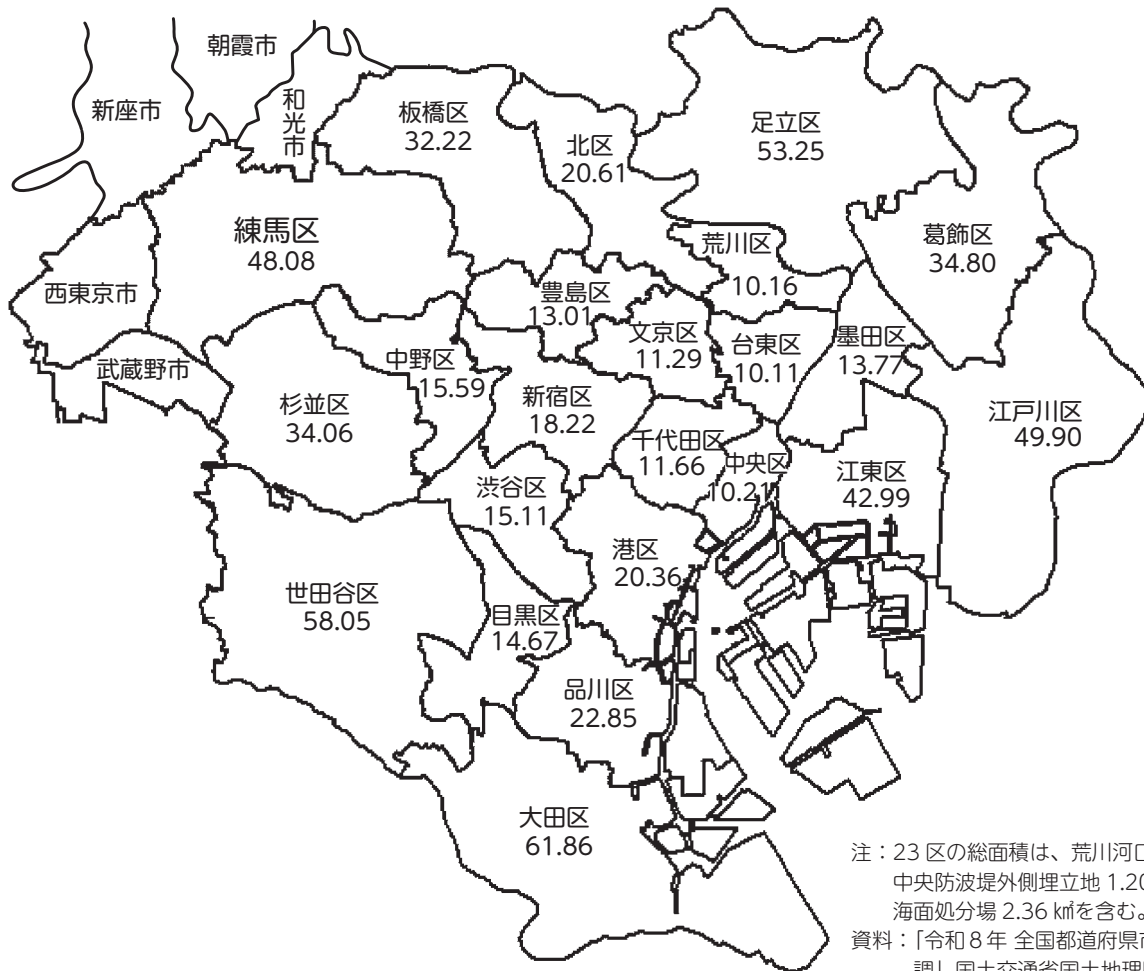
寄贈された写真から「石神井公園ボート池（昭和10年代）」

1 地 勢

〔23区の位置と面積〕（単位：km²）

23区の総面積 627.51km²

8年1月1日現在



●位置、面積

練馬区は、東京都 23 区の北西部に位置し、北東から南にかけては板橋区、豊島区、中野区、杉並区に接し、西から南西にかけては西東京市、武蔵野市との境をもち、北は埼玉県の新座市、朝霞市、和光市に接している。

経・緯度でみると、東経 139 度 33 分 46 秒～139 度 40 分 52 秒、北緯 35 度 42 分 43 秒～35 度 46 分 46 秒に位置している。なお、練馬区役所の位置は、東経 139 度 39 分 8 秒、北緯 35 度 44 分 8 秒である。

一方、練馬区の面積は 48.08km²で東西約 10km、南北約 4～7km のほぼ長方形である。

東京都の総面積 2,199.94km²に対し、練馬区はその約 2.2%、23 区の総面積 627.51km²に対し約 7.7%に当たり、23 区の中では大田区、世田谷区、足立区、江戸川区に次いで 5 番目の広さである。

●地 形

練馬区は、ほとんど高低差のないならかな地形をしている。

地盤高でみると、西側が高く東側へ行くにつれて低くなっている。水準基標によると、関町北四丁目（石神井高校内）では海拔 54.01m、桜台二丁目（開進第三小学校向側）では海拔 34.16m となり、起伏の少ない台地状となっている（資料：「水準基標測量成果表」東京都土木技術支援・人材育成センター）。

この台地は武蔵野台地といわれる洪積台地である。

●地 質

練馬区の地質は、地質年代からみると比較的新しい時代に形成された地層で、台地は洪積層、低地は沖積層からなっている。

〔町名図〕



洪積層は、上部の関東ローム層、中部の粘土砂の互層、下部の砂礫層から構成されている。この台地の洪積層と、低地の沖積層の基盤になっているのが第三紀層である。

武蔵野台地の表面は、ローム層で厚く覆われていて水を得ることができないが、ローム層の下には粘土と小石の累層があって水を含んでおり、そうした層が谷の底、谷の側壁、段丘の崖の下などに露出して湧水となる。三宝寺池、富士見池や井頭池（弁天池）は、こうした湧水からできた池である（資料：「昭和44年練馬区地下水調査報告書」）。

●地名の由来

「ねりま」という地名の由来には、「関東ローム層の赤土を黏ったところを『黏場』^{ねりば}といった」、「石神井川流域の低地の奥まったところに沼＝『根沼』^{ねぬま}が多かった」、「奈良時代、武蔵国に『乗漕』^{のりぬま}という宿駅があった」、「中世、豊島氏の家臣に馬術の名人がおり、馬を馴らすことを『ねる』といった」などの諸説があり、定説はない。

●区の紋章

ネリマの「ネ」の字と「馬のひづめ」を組み合わせで図案化したもので、約900点の応募作品から選定された。

練馬区が平和で、健康で、明るいまちに発展していくようにという願いをこめて、昭和28年12月に制定された。



〔区の紋章〕

●区の花と木

美しい花と豊かなみどりの住みよいまちづくりを進めるために、区のシンボルとなる花と木を区民から公募し、昭和46年4月、花は「ツツジ」、木は「コブシ」を選定した。



〔区の花 ツツジ〕



〔区の木 コブシ〕